

[学術論文]

# 乳幼児の行動のチェックリスト (ECBQ) 短縮版の作成

The Development of a Short Form of the Japanese Early Childhood Behavior Questionnaire

中川 敦子・木村 由佳・鋤柄 増根・水野 里恵

Atsuko NAKAGAWA Yuka KIMURA Masune SUKIGARA Rie MIZUNO

---

*Studies in Humanities and Cultures*

---

No. 16

名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』抜刷 16号

2011年12月

**GRADUATE SCHOOL OF HUMANITIES AND SOCIAL SCIENCES**

NAGOYA CITY UNIVERSITY

NAGOYA JAPAN

DECEMBER 2011

[学術論文]

## 乳幼児の行動のチェックリスト (ECBQ) 短縮版の作成\*

### The Development of a Short Form of the Japanese Early Childhood Behavior Questionnaire

中川 敦子・木村 由佳・鋤柄 増根・水野 里恵

Atsuko Nakagawa Yuka Kimura Masune Sukigara Rie Mizuno

**要旨** 本研究は、The Early Childhood Behavior Questionnaire (ECBQ) 短縮版の作成を目的として行ったものである。作成には、中川ら (2007) が作成し実施したECBQ日本版 (全201項目, 18尺度) の結果を使用した。月齢1.5 - 3歳児の318名の回答結果から、各尺度4~7項目からなる18尺度の短縮版 (全107項目) を作成した。短縮版の107項目中、オリジナルの短縮版 (Putnamら, 2010) と重複する項目は65項目 (重複率60.7%) であった。短縮版は十分な内的整合性を持ち、標準版とも有意な相関が見られた。また、因子分析の結果、因子パターンは標準版と同様の3因子構造が再現された。

**キーワード** : 気質, The Early Childhood Behavior Questionnaire, 短縮版

#### 目的

気質は、個人の行動等に見られる一貫性のある特徴を指す。後々の経験や生活環境、人間の意志によって変容する可能性を有するものの、発達の初期から明らかになる個人差である。近年、生まれて間もない乳児にも気質的特徴に差がみられ、またそれらが乳幼児期を通して一貫性を有することが明らかとなってきた。乳幼児期では発達に伴って、具体的な行動が変化する一方で、基底には一貫した気質的特徴が見出されている (栗山, 2000)。

近年、子どもの発達を考えるにあたり、こうした気質的特徴は重要視されるべきであると考えられている。環境省では、2010年に「子どもの健康と環境に関する全国調査 (エコチル調査)」が開始され、その一部には子どもの精神神経発達の領域における気質の調査も含まれている。乳幼児期は認知面、運動面、情緒面における変化が大きい。また、子どもに本来備わる気質と、その子と関わる親の行動パターンなど環境面からの相互作用が著しいとされる。こうした調査により、幼児期における自閉症スペクトラム (ASD : Autism Spectrum Disorders) など発達障害児の気質的特徴、および養育者の育児行動などの環境や症状形成に与える影響などを調べるのが期待

Table 1 The 18 scales of The Early Childhood Behavior Questionnaire

Activity Level (AL)/Energy	活動性が高い・活発である
Attentional Focusing (AF)	ひとつのことに注意を持続できる
Attentional Shifting (AS)	あることから他のことへ注意を移せる
Cuddliness (C)	抱かれるなどの身体的な密着を好む
Discomfort (D)	光や音など生活環境におけるストレス
Fear (FE)	恐怖心や不安が強く心配性である
Frustration (FR)	作業を邪魔されると不満を感じやすい
High-Intensity Pleasure (HIP)	刺激の強い遊びを好む
Impulsivity (I)	衝動性が高い・衝動的である
Inhibitory Control (IC)	言われたことに従って行動できる
Low-Intensity Pleasure (LIP)	刺激の弱い静かな遊びを好む
Motor Activation (MA)	落ち着きなく小さな動きをくり返す
Perceptual Sensitivity (PS)	周囲のわずかな刺激にも敏感である
Positive Anticipation (PA)	楽しいことを期待して興奮しやすい
Sadness (SA)	何かといえば悲しくなり涙が浮かぶ
Shyness (SH)	恥ずかしがりやである
Sociability (SC)	人とつきあうのが好きである
Soothability (SO)	興奮してもすぐに落ち着く

される。このように、発達障害の早期発見の一手段として、気質の研究と調査が重要視されている。

こうした気質を測定する手段として、Rothbartらは年齢に応じた一連の質問紙を開発してきた。彼らは、気質を神経系の反応 (reactivity) と自己制御 (self-regulation) における個人差と定義して (Rothbart, 1981) 研究を進め、改訂を重ねている。その中で、乳児用に作られたものが、行動のチェックリストThe Infant Behavior Questionnaire-Revised (IBQ-R : Gartstein & Rothbart, 2003) であり、乳児の気質を測る上でその有用性が見込まれている。中川・鋤柄 (2005) はIBQ-Rの日本版を作成・実施をし、結果をオリジナルと比較している。また、中川・木村・鋤柄 (2009) はこの実施結果からIBQ-R短縮版の作成を行った。

本研究では、乳児期の気質質問紙IBQ-Rに引き続き、18ヶ月から36ヶ月の幼児を対象としたThe Early Childhood Behavior Questionnaire (ECBQ : Putnam, Gartstein & Rothbart, 2006) の短縮版の作成を行う。

Putnamら (2006) が作成したThe Early Childhood Behavior Questionnaire (ECBQ) は、18ヶ月から36ヶ月の幼児を対象とする気質の質問紙である。ECBQは、18の気質次元 (Table 1) が想定されており、各尺度はそれぞれ8から12項目の具体的な行動の質問項目で構成されている。質問は、例えば養育者が“服を着せたり脱がせたりする時、もがいたり、逃げようする”ことが過去2週間どのくらいの頻度で見られたかを7段階で評定する形式になっている。このように、子どもの包括的な特徴 (活動的かどうか、など) を直接訊くのではなく、具体的な行動表出の頻度を問

う形式である。そのため、回答者である養育者の反応バイアスが加味されないように工夫されている。

しかし、ECBQは全201の質問項目で構成されているため、完全回答までに約1時間ほどが必要とされており回答者の負担は大きい。より簡便に使用できる尺度があれば、その活用範囲は広がるのが期待できる。そこで、本研究では中川・鋤柄(2007)が作成・実施したECBQ日本語版の結果からその短縮版を作成することを目的とする。

## 短縮版の作成

中川ら(2007)の結果に基づき、ECBQ短縮版を作成した結果を報告する。

### 方法

**質問紙** ECBQ日本語版は18尺度について8から12項目の具体的な行動記述から構成されており、合計201項目からなる。教示は、“それぞれの場面での様子が、この2週間にどのくらいお子さんに見られたかをお答えください。評定は‘全く見られなかった’から‘いつも見られた’までの7段階です。該当する場面を経験しなかった場合は、×に印をつけてください。”尺度値は、各尺度項目の合計得点を回答項目数で割り算出する。

**調査協力者** 2006年1月～6月、名古屋市、江南市、福井市にて、1歳半健診および歯科健診のために保健所に訪れた養育者に質問紙を直接手渡しして依頼した。その他、名古屋市、江南市の幼稚園や子育てサークルを通して間接的に配布した。質問紙はすべて郵送によって回収し、全体で58.0%が回収された。そのうち以下のいずれかに該当するものは分析から除外した。出生体重が2500g未満および4000g以上、在胎期間37週未満42週以上、出産時に何らかの異常が見受けられたもの、保育園に預けられているもののいずれかである。最後の条件は日中の乳児の様子を把握している者が回答者としてより望ましいために付加した。最終的に318名が分析対象となり、月齢18-23ヶ月児191名(男児93, 女児98), 24-29ヶ月児69名(男児33, 女児36), 30-36ヶ月児58名(男児35, 女児23)であった。

**短縮版作成手順** 短縮版に採用する項目を選定するために、Putnam & Rothbart(2006)と同様の手順を行った。内容が日常の育児場面を反映しやすいことを基準とするため、未経験回答(該当する場面を経験しなかったとして×に印をつけた項目)が高い項目は恣意的に除外することとした。未経験回答が40%を超える項目はなかったため全項目を対象とした。初めに全データを用いて、各気質次元の尺度得点と項目の評定値との相関係数を算出した。そこで、尺度ごとで相関の高い上位6項目を暫定的に短縮版項目とした。各尺度でクロンバックの $\alpha$ 係数を算出したところ、.54から.86となった(Table 2)。

Table 2 Item-total correlations

Scale	<i>r</i>	$\alpha$
Activity Level (AL)	.36 - .54	.67
Attentional Focusing (AF)	.59 - .67	.86
Attentional Shifting (AS)	.32 - .52	.66
Cuddliness (C)	.41 - .51	.72
Discomfort(D)	.28 - .46	.69
Fear (FE)	.33 - .47	.64
Frustration (FR)	.37 - .54	.72
High Intensity Pleasure (HIP)	.44 - .58	.81
Impulsivity (I)	.25 - .40	.54
Inhibitory Control (IC)	.51 - .61	.84
Low Intensity Pleasure (LIP)	.26 - .52	.68
Motor Activation (MA)	.34 - .49	.64
Perceptual Sensitivity (PS)	.45 - .52	.71
Positive Anticipation (PA)	.40 - .57	.81
Sadness (SA)	.42 - .54	.73
Shyness (SH)	.50 - .68	.83
Sociability (SC)	.50 - .67	.85
Soothability (SO)	.47 - .67	.85

次に、Putnamら（2006）と同様の手順で、尺度ごとで項目を対象とした因子分析（主因子法・直接オブリミン回転）を行った。18尺度すべてにおいて、概ね1因子構造を示した。しかし、High-Intensity Pleasure（HIP）尺度では2因子構造を考慮した項目を選択した。それは質問内容が室内での行動に限られないように、屋外での活発な動きを尋ねる項目も含めたかったためである。

このように質問内容が短縮版の尺度でも反映されるよう、暫定的な短縮版項目を因子構造の観点から検討し、必要に応じて項目を入れ替えた。その際、項目内容の重複を避け、尺度内の $\alpha$ 係数が出来るかぎり.65を下回らないことを目標にした。

## 結果

**尺度の信頼性** 18尺度それぞれについて $\alpha$ 係数を算出したところ、.62から.89の範囲となり、一部の整合性が低い尺度も含まれていた（Table 3）。18尺度のうち、 $\alpha$ 係数が.70以上の尺度は11尺度であり、残りの.70以下の7尺度はActivity Level（AL）尺度で $\alpha = .67$ 、Attentional Shifting（AS）尺度で $\alpha = .66$ 、Discomfort（D）尺度で $\alpha = .67$ 、Fear（FE）尺度で $\alpha = .68$ 、Impulsivity（I）尺度で $\alpha = .62$ 、Low Intensity Pleasure（LIP）尺度で $\alpha = .68$ 、Motor Activation（MA）尺度で $\alpha = .66$ であった。

Table 3 Age comparisons

Scale	No.Items	$\alpha$	Low (n=191)		M (n=69)		High (n=58)		$F_{(2,274)}$	Short to Standard r
			Mean	SD	Mean	SD	Mean	SD		
Activity Level										.90**
Standard	12	.74	4.17	.89	4.01	.93	3.95	1.05	4.88**	
Short	6	.67	4.80	1.05	4.85	1.07	4.45	.95		
Attentional Focusing										.95**
Standard	12	.89	2.64	1.10	3.06	1.04	3.16	1.02	16.0**	
Short	6	.86	3.91	1.22	4.70	1.02	4.65	1.31		
Attentional Shifting										.89**
Standard	12	.66	3.50	.85	3.58	.87	3.50	.63		
Short	6	.66	4.53	.92	4.76	.86	4.82	.78		
Cuddliness										.90**
Standard	12	.74	4.40	.82	4.38	0.82	4.53	.60	8.30**	
Short	6	.72	4.95	.90	5.14	.91	5.31	.82		
Discomfort										.84**
Standard	10	.65	1.40	1.33	1.72	1.40	1.64	1.42		
Short	5	.67	2.39	.96	2.67	.90	2.58	.86		
Fear										.93**
Standard	11	.721	1.87	1.43	2.42	1.51	2.19	1.44	3.75*	
Short	7	.68	2.60	.98	2.96	1.03	3.00	.92		
Frustration										.91**
Standard	12	.80	2.84	1.31	3.19	1.24	2.95	1.28		
Short	6	.72	4.27	1.18	4.31	1.18	4.15	1.12		
High Intensity Pleasure										.92**
Standard	12	.79	2.88	1.38	2.59	1.38	2.38	1.39		
Short	6	.72	4.34	1.21	4.32	1.19	4.31	1.07		
Impulsivity										.85**
Standard	10	.63	2.39	1.24	2.24	1.36	1.91	1.22	4.34*	
Short	7	.62	5.55	.78	5.34	.78	5.26	.85		
Inhibitory Control										.91**
Standard	12	.85	2.97	1.07	3.12	0.91	3.12	.94	3.75*	
Short	6	.84	3.26	1.15	3.64	1.08	3.78	1.18		
Low Intensity Pleasure										.89**
Standard	11	.71	2.19	1.07	2.51	1.16	2.31	1.29		
Short	6	.68	4.16	.83	4.15	.90	4.09	.94		
Motor Activation										.95**
Standard	11	.69	1.22	1.24	1.19	1.26	0.95	1.05		
Short	7	.66	2.21	.91	2.12	.79	1.85	.69		
Perceptual Sensitivity										.93**
Standard	12	.81	2.17	1.36	2.32	1.30	2.24	1.33	4.34*	
Short	6	.71	3.95	1.11	4.43	1.24	4.26	1.12		
Positive Anticipation										.93**
Standard	11	.81	3.13	1.38	3.41	1.33	3.60	1.11	12.7**	
Short	6	.81	4.48	1.39	4.97	1.30	5.36	.83		
Sadness										.91**
Standard	12	.78	0.94	1.11	1.17	1.27	1.07	1.17		
Short	6	.70	3.42	1.07	3.26	1.09	3.42	1.07		
Shyness										.92**
Standard	12	.82	2.54	1.49	2.97	1.28	2.79	1.40		
Short	6	.83	3.77	1.35	3.70	1.16	3.49	1.19		
Sociability										.88**
Standard	8	.87	3.48	1.10	3.68	0.92	3.90	.83	6.85**	
Short	4	.89	5.00	1.50	5.45	1.33	5.76	1.34		
Soothability										.93**
Standard	9	.87	3.10	.99	3.26	.92	3.29	1.01		
Short	5	.84	4.94	1.12	4.70	1.21	4.75	1.32		

\*\* $p < .01$  \* $p < .05$

Low : 18 - 23 months, M : 24 - 29 months, High : 30 - 36 months.

Table 4 Gender comparisons

Scale	Males (n=161)		Females (n=157)		F(1, 274)
	Mean	SD	Mean	SD	
AL	4.94	1.03	4.55	1.01	7.98**
AF	4.16	1.32	4.27	1.18	
AS	4.65	.83	4.62	.95	
C	4.98	.90	5.15	.90	3.94*
D	2.58	.94	2.39	.93	
FE	2.77	1.01	2.73	.98	
FR	3.91	1.03	3.54	1.10	7.76**
HIP	4.56	1.15	4.09	1.15	8.96**
I	5.49	.75	5.42	.84	
IC	3.80	1.15	4.18	1.18	6.06*
LIP	4.67	1.02	4.87	.93	
MA	2.27	.92	2.14	.79	
PS	4.19	1.12	4.03	1.19	
PA	4.81	1.34	4.74	1.39	
SA	3.39	1.12	3.34	1.03	
SH	3.69	1.31	3.73	1.26	
SC	5.32	1.42	5.17	1.50	
SO	4.81	1.20	4.89	1.16	

\*\* $p < .01$  \* $p < .05$ 

標準版との比較では、標準版よりも $\alpha$ 係数が高くなった尺度は、D尺度で $\alpha = .67$ 、Shyness (SH) 尺度で $\alpha = .83$ 、Sociability (SC) 尺度で $\alpha = .89$ の3尺度、標準版と $\alpha$ 係数が同値になったのは、AS尺度で $\alpha = .66$ 、Positive Anticipation (PA) 尺度で $\alpha = .81$ の2尺度であった。残りの13尺度は標準版よりも $\alpha$ 係数が低くなる結果となった。なかでも、I尺度においては標準版での $\alpha$ 係数が元々.63と低かったため、目標値(.65)を下回る結果となった。

ECBQは、その尺度により質問項目の内容が概ね似ている尺度もあれば、質問内容に広がりを持つ尺度も含まれる。そのため、短縮版では項目数を減らすことで、内的整合性は標準版と比較すると低く尺度も含まれる結果となった。しかし、中川ら(2005)によるとECBQは行動のチェックリストという性質上必ずしも内的整合性が高くなる保証はなく、また内的整合性を高める必要のない尺度とも考えられている。

**年齢差と性差** 14尺度の月齢群ごとの平均値をTable 3に、男女別の平均値をTable 4に示す。月齢(3)×性(2)の2要因の分散分析の結果、月齢の効果が9尺度で認められた。まず、高月齢児が低月齢児と比べて尺度得点が高くなったのは、Cuddliness (C)、Fear (FE)、Positive Anticipation (PA)、Sociability (SC)の4尺度であった。この4尺度は加齢とともに得点が増加していた。反対に、低月齢群で得点が高くなったのはImpulsivity (I)の1尺度であった。また、

Activity Level (AL), Attentional Focusing (AF), Inhibitory Control (IC), Perceptual Sensitivity (PS) の4尺度では24 - 29ヶ月の中月齢群が一番得点の高い結果となった。月齢効果が標準版と同じになったのは, AF, C, I, PS, PA, SCの6尺度であった。標準版の結果とは異なったのは, AL, Attentional Shifting (AS), Discomfort (D), FE, Inhibitory Control (IC) の5尺度で, 標準版のALとFEの2尺度では月齢間の有意差は認められなかった。また, 短縮版ではAS, Dの2尺度では月齢間の有意差は認められなかった。残るIC尺度は, 標準版では中月齢群が高い結果であった。

性差に関しては, 標準版の結果と同様にActivity Level (AL), Frustration (FR), High Intensity Pleasure (HIP) の3尺度では男児の得点が高く, Cuddliness (C), Inhibitory Control (IC) の2尺度では女児の得点が高くなった。標準版の結果とは異なり, Low Intensity Pleasure (LIP) では性別間に有意差は認められなかった。また, 月齢と性の交互作用はFear (FE) のみで認められ ( $F_{(2, 274)} = 3.39, p < .05$ ), 中月齢群で特に性差が大きかった。標準版ではAttentional Shifting (AS) でも月齢と性の交互作用が認められたが短縮版では認められなかった。

**標準版と短縮版の相関** 標準版との相関を検討した。群分けは以下の手順で行った。各尺度で, 標準版の尺度得点の上位から順に1位:A群, 2位:B群, 3位:B群, 4位A群, 5位A群……と, 成績に偏りがでないように回答者を2群に分けた。また, どちらかの群で成績が高くないように, 各尺度でA, Bの始まりを入れ替えた。こうして標準群と短縮群でマッチングを図り, 標準版の尺度得点と短縮版の尺度得点の相関を算出した。0.1%水準に相当する, .85から.95の有意な正の相関が認められた (Table 3)。

**日米の短縮版項目の比較** 本研究で得られた短縮版107項目中, Putnam, Jacobs, Gartstein & Rothbart (2010) が作成したオリジナルのECBQ短縮版の項目と重複したのは65項目であり, 重複率は61%であった。重複した項目について詳しくは付録に明記した。

各下位尺度での平均重複項目数は3.6項目であり, 重複項目が最小だったのはCuddliness (C), Impulsivity (I), Shyness (SH), Sociability (SC) の4尺度で2項目, 最多だったのがActivity Level (AL), Attentional Shifting (AS), Discomfort (D), Fear (FE), Frustration (FR), Perceptual Sensitivity (PS) の6尺度で5項目であった。

**因子分析** 探索的因子分析 (主因子法・直接オブリミン回転) を, 短縮版の18尺度を対象に実施した。中川ら (2006) が示した3つの気質特徴に対応した因子パターンが得られるかどうかを検討するために, 因子を3に指定した。その結果得られた因子パターンをTable 5に示す。第1因子 (高潮性/外向性: Surgency/Extraversion) では7尺度, 第2因子 (負の情動性: Negative



Table 5 ECBQ Short form factor pattern

Scale	I	II	III
D	<b>.726</b>	.053	.181
FE	<b>.616</b>	.168	.197
SA	<b>.532</b>	-.034	.097
SO	<b>-.490</b>	-.006	.187
MA	<b>.471</b>	-.205	-.076
FR	<b>.450</b>	-.422	-.042
SH	<b>.367</b>	.084	-.140
AL	-.141	<b>-.827</b>	.145
HIP	.031	<b>-.672</b>	.131
IC	-.162	<b>.563</b>	.246
I	-.225	<b>-.523</b>	.066
C	-.159	<b>.335</b>	.226
AS	-.231	.015	<b>.602</b>
PS	.272	-.057	<b>.581</b>
LIP	.055	.107	<b>.559</b>
SC	-.142	-.135	<b>.471</b>
PA	.128	-.115	<b>.463</b>
AF	-.071	.265	<b>.416</b>
<i>r</i> between the factors		I	II
	II	-.093	
	III	-.109	.077

Table 6 ECBQ factor pattern

Scale	I	II	III
D	<b>.672</b>	.074	.282
FE	<b>.658</b>	.218	.103
SA	<b>.630</b>	-.068	.038
SO	<b>-.601</b>	.018	.157
FR	<b>-.565</b>	-.394	-.048
MA	<b>.533</b>	-.238	-.006
SH	<b>.458</b>	.241	-.194
AL	-.034	<b>-.787</b>	.112
HIP	.078	<b>-.667</b>	.198
I	-.251	<b>-.589</b>	.021
IC	-.146	<b>.572</b>	.329
C	-.112	<b>.322</b>	.218
PS	.337	-.013	<b>.632</b>
AS	-.317	.048	<b>.623</b>
SC	-.157	-.242	<b>.579</b>
PA	.099	-.248	<b>.491</b>
LIP	.064	.181	<b>.419</b>
AF	-.047	.290	<b>.409</b>
<i>r</i> between the factors		I	II
	II	-.053	
	III	-.072	.065

Affectivity) では4尺度, 第3因子 (エフォートフル コントロール: Effortful Control) では3尺度となった。中川ら (2007) が得た因子パターン (Table 6) と比較すると, 本研究の18尺度は標準版と同様の因子に属する結果となった。したがって, 本研究では中川・鋤柄 (2006) の因子パターンが再現されたといえる。

## 結論

本研究は, 中川ら (2007) が作成・実施したECBQ日本版のデータを基に, その短縮版の作成を試みた。作成した短縮版尺度は標準版尺度との間に  $r = .85 - .95$  の高い相関を認め, 内的整合性においても標準版と同程度であった。また, 因子分析の結果からは標準版と同様の3因子構造が確認され, 因子下の尺度のまとまりも同様なものであった。以上のことより, 標準版の因子パターンが再現されたといえる。

次に, 本研究で作成されたECBQ短縮版とオリジナル短縮版 (Putnamら, 2010) の項目を比較検討してみたところ, 各下位尺度において平均で約3項目が重複していた。しかし, Sociability (SC) 尺度は重複項目が2項目と少なかった。今回作成した短縮版のSC尺度は全部で4項目と少なかったことが, 重複する項目数が少なくなる結果になったと考えられる。また, Impulsivity (I) 尺度でも重複した項目は2項目と少なかった。これはオリジナル短縮版 (Putnamら, 2010) のI尺度として選定された項目が全部で4項目と少なかったため, 重複する項目がどうしても少なくなったと考えられる。Cuddliness (C), Shyness (SH) 尺度でも重複項目が2項目と少なかったが, こちらはオリジナル短縮版で選定された項目は本研究では相関が低かった結果のためである。

本短縮版尺度は, 中川ら (2007) が作成・実施したECBQ日本版を簡便に利用する目的で開発された。今後の課題として, 作成した短縮版の妥当性を確認するためにも, 標準版や他の指標 (例えば行動観察データなど) と比較検討することが挙げられる。

## 謝辞

\* 本研究は平成17-21年度科学研究費補助金基盤 (B) (課題番号17330143, 研究代表者 中川敦子) ならびに平成18年度子ども未来財団の研究助成を受けて行われた研究の一部である。

## 引用・参考文献

麻原きよみ・井桁しげ子 (1993). 幼児の発達状態と気質に関する研究—1歳6か月と3歳時点の比較—小児保健研究, **52**, 347-353.

Helbig, A. L., Putnam, S. P., Gartstein, M.A., & Rothbart, M. K. (2009). Development and Assessment of Short and Very Short Forms of the Infant Behavior Questionnaire – Revised. Society for Research in Child Development

栗山容子 (2000). 乳幼児の気質構造の分析. 小児保健研究, **59**, 417-423.

栗山容子・前川喜平・蓮見元子・星 三和子・瀬戸淳子・星 永・小田切房子・奥平洋子・若葉陽子・大伴

- 潔・庄司順一 (2001). 低体重児の気質と母親の意識・感情の発達の变化と相互関連性 小児保健研究, **60**, 511-518.
- 水野里恵 (2009). 気質 湯川良三・高橋恵子・稲垣佳世子・平木典子・氏家達夫 (編) 児童心理学の進歩 金子書房 Pp.2-26.
- 三宅和夫 (1990). 子どもの個性—生後2年間を中心に 東京大学出版会 Pp.25-56.
- 中川敦子・鋤柄増根 (2005). 乳児の行動解釈における文化差はIBQ-R日本版にどのように反映されるか 教育心理学研究, **53**, 491-503.
- 中川敦子・鋤柄増根・水野里恵 (2007). 気質と育児行動の望ましい相互作用を科学知として提供するための基礎的研究 財団法人こども未来財団
- 中川敦子・木村由佳・鋤柄増根 (2009). 乳児の行動のチェックリスト (IBQ-R) 短縮版の作成 名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』, **12**, 15-25.
- 中川敦子・鋤柄増根 (2010). 気質の発達と遊び・なだめ方 小児保健研究, **69**, 657-665.
- Putnam, S. P., & Rothbart, M. K. (2006). Development of Short and Very Short Forms of the Children's Behavior Questionnaire. *Journal of Personality Assessment*, **87**, 103-113.
- Putnam, S. P., Gartstein, M. A., & Rothbart, M. K. (2006). Measurement of fine-grained aspects of toddler temperament: The Early Childhood Behavior Questionnaire. *Infant Behavior and Development*, **29**, 386-401.
- Putnam, S. P., Jacobs, J., Gartstein, M. A., & Rothbart, M. K. (2010). Development and assessment of short and very short forms of the Early Childhood Behavior Questionnaire. Poster presented at International Conference on Infant Studies, Baltimore, MD.
- Rothbart, M. K. (1981). Measurement of temperament in infancy. *Child Development*, **52**, 569-578.
- 庄司順一 (1999). 子どもの気質と発達 小児保健研究, **58**, 132-137.
- 武井裕子・寺崎正治・門田昌子 (2007). 幼児気質質問紙の試み パーソナリティ研究, **16**, 80-91.

## 付録

ECBQ短縮版の各尺度における質問項目を、標準版の項目番号とともに以下に示す。項目番号の後ろのRは反転項目を意味する。また、オリジナル短縮版と重複する項目は項目番号の下に下線を記す。

Activity level オリジナル短縮版と重複する項目数：5項目

- 57 普段の生活で、あちこちへすばしっこく動く
- 102R 他の子どもたちと外で遊んでいる時、おとなしく座って見ている
- 109 服を着せたり脱がせたりする時、もがいたり、逃げようとする
- 110R 服を着せたり脱がせたりする時、じっとしている
- 122 室内で遊んでいる時、家中を走り回る
- 156 普段の生活で、夕方になっても、エネルギーに満ち溢れているようである

Attentional Focusing オリジナル短縮版と重複する項目数：3項目

- 50 何かに動揺した時、お気に入りのおもちゃで、10分以上遊び続ける

- 91 ブロックで何かを組み立てるような注意を要する活動をしている時, 10分以上その活動を続ける
- 92R ブロックで何かを組み立てるような注意を要する活動をしている時, 比較的すぐに飽きてしまう
- 127 一人で遊んでいる時, 一組のおもちゃで一度に5分以上遊ぶ
- 196R 一人で遊んでいる時, 何かを最後までやるということなく, あれをやったりこれをやったりする
- 197R 一人で遊んでいる時, うまく方向づけてやらないと, 一つの遊びに集中するのはむずかしい

**Attentional Shifting** オリジナル短縮版と重複する項目数: 5項目

- 43 外で遊んでいる時, あなたが何かを指さしたら, すぐにそれを見る
- 51 何かに動揺した時, お気に入りのおもちゃで遊びながら, 同時に, あなたの言葉や質問にも答える
- 60 なにかの活動を中断された後で, その活動に戻ることができる
- 61R なにかの活動を中断された後で, その活動に戻るのがむずかしい
- 120 普段の生活で, あれをやったりこれをやったりと, 注意を切り替えることができる
- 121 普段の生活で, たとえばテレビを見ながらおもちゃで遊ぶように, 一度にいくつかのことをする

**Cuddliness** オリジナル短縮版と重複する項目数: 2項目

- 14 抱っこしてどこかに連れて行かれる時, そのまま抱かれていることを好む
- 16R 抱っこしてどこかに連れて行かれる時, 体をくねらせる
- 17R 抱っこしてどこかに連れて行かれる時, 離れて自由になりたがる
- 80R やさしく揺すられたり抱きしめられた時, しきりに逃れようとする
- 159R あなたのひざの上に抱かれている間, 逃げようとして足をばたばたさせる
- 160 あなたのひざの上に抱かれている間, 楽しそうにしている

**Discomfort** オリジナル短縮版と重複する項目数: 5項目

- 94 普段の生活で, 大きな音に気を乱されるようだ
- 105 普段の生活で, 服の飾りやタグを気にしてイライラする
- 152 普段の生活で, 騒がしいところでは, まわりの騒音にいらだつ
- 153 普段の生活で, 毛のような, チクチクする肌触りにいらだつ

180 普段の生活で、普段の生活で、衣服がきついといらいらする

**Fear** オリジナル短縮版と重複する項目数：5項目

38 家庭で、掃除機やミキサーなどから出る大きな音におびえる

39 家庭で、暗闇を怖がる

62 テレビを見ているとか話を聞いている間、怪物のキャラクターを怖がる

98 自宅の外で、散歩中の犬など見知らぬ動物が近づくと、泣いたり嫌がったりする

99 自宅の外で、大きな騒々しい乗り物を怖がる

176 初めての場所を訪れる時、中へ入りたがらない

177R 初めての場所を訪れる時、さっと中へ入る

**Frustration** オリジナル短縮版と重複する項目数：5項目

2 「もう寝る時間よ」とか、「お昼寝の時間よ」と言われた時、いらいらする

86 他の子どもがお気に入りのおもちゃを持って行ってしまった時、怒って、叫び声をあげる

134 お子さんが何かを求めてきたのに対してあなたが「ダメ」と答えると、いらいらする

135 お子さんが何かを求めてきたのに対してあなたが「ダメ」と答えると、怒って不満の意を表す

136 お子さんが何かを求めてきたのに対してあなたが「ダメ」と答えると、かんしゃくを起こす

184 あなたがお子さんのおこないに対してやさしく注意したり正したりすると、腹をたてる

**High-Intensity Pleasure** オリジナル短縮版と重複する項目数：3項目

13 外で遊んでいる時、木やジャングルジムの上などの高い場所に登りたがる

74 室内で遊んでいる時、荒っぽい、乱暴な遊びを好む

75 室内で遊んでいる時、追いかけてこのような騒がしい遊びをしたがる

76 室内で遊んでいる時、ソファーやベットの上を活発に飛び跳ねて楽しむ

124R 室内で遊んでいる時、荒っぽい乱暴な遊びは好まない

192 外で遊んでいる時、車輪のついている乗り物に乗って、速く押ししてもらうのを喜ぶ

**Impulsivity** オリジナル短縮版と重複する項目数：2項目

23R 何をするか、どうするかを尋ねられた時、決定する前に時間をかけてよく考える

24 何をするか、どうするかを尋ねられた時、すばやく何をするかを決めて、それに突き進む

25R 何をするか、どうするかを尋ねられた時、次に何をするかについてゆっくりと考え、急が

ないようである

- 63 あなたがお子さんの大好きな外遊びを提案した時、すぐに反応する
- 140 あなたがお子さんの興味をひくおもちゃを与えた時、そのおもちゃが置かれるとすぐに手にする
- 141R あなたがお子さんの興味をひくおもちゃを与えた時、さわる前にそのおもちゃをじっと見る
- 178 あなたがお子さんに何かのやり方を教えている時、説明が十分終わらないうちに、作業をやり始める

**Inhibitory Control** オリジナル短縮版と重複する項目数：3項目

- 26R ○○しないでねと言われた時、それにもかかわらず、家中走り回る
- 27R ○○しないでねと言われた時、それにもかかわらず、目をひく置き物（たとえば花瓶）などに触れる
- 28R ○○しないでねと言われた時、それにもかかわらず、何かをいじくり回す
- 112 「だめ！」と言われた時、やめるよう言われたことはしなくなる
- 113R 「だめ！」と言われた時、警告を無視する
- 173 言われたら、今やっている活動をやめる

**Low-Intensity Pleasure** オリジナル短縮版と重複する項目数：4項目

- 29 あなたとお子さんが一緒に日中または夕暮れの静かな時間を過ごす時、ただ静かに歌を歌ってもらうのが好きである
- 30 あなたとお子さんが一緒に日中または夕暮れの静かな時間を過ごす時、わらべうた（例：ずいずいずっころばし）にあるようなことばの調子をにこにこして聞く
- 31 あなたとお子さんが一緒に日中または夕暮れの静かな時間を過ごす時、ただ話かれるのが好きである
- 146 やさしくゆすってもらっている時、微笑む
- 163 物語を読んでもらっている間、その話を楽しそうに聞いている
- 170 一人で絵本をみている間、本を見るのを楽しんでいる

**Motor Activation** オリジナル短縮版と重複する項目数：4項目

- 7 普段の生活で、机や周りのものを指で軽くあるいはトントンと繰り返し叩く
- 72 絵本を読むなどの静かな活動の最中、髪の毛や服などをいじくる
- 73 絵本を読むなどの静かな活動の最中、ある動作（たとえば目を細める、肩をすくめる、あ

るいは顔の筋肉をびくびく動かすなど)を繰り返す

- 108 普段の生活で、ある動作(たとえば目を細める、肩をすくめる、あるいは顔の筋肉をびくびく動かすなど)を繰り返す
- 128 一人で遊んでいる時、自分の身体をかく
- 129 一人で遊んでいる時、手元にあるものを引き裂く
- 182 普段の生活で、座っている間、体を前後にゆする

**Perceptual Sensitivity** オリジナル短縮版と重複する項目数：5項目

- 35 普段の生活で、クーラーや暖房器具、冷蔵庫の運転音や始動音などの低い音に注意を向ける
- 58 普段の生活で、物に触れた時、なめらかさあるいはざらざら感に気がつく
- 138 外で遊んだり、歩いたりしている時、噴水や床屋のクルクル回る標識、鳥の声などの景色や音に気がつく
- 154 普段の生活で、あなたの外見の変化(髪が濡れているとか、帽子をかぶっているとか、アクセサリーをつけているなど)に気がつく
- 155 普段の生活で、静かな物音さえ聞いているようだ
- 183 普段の生活で、遠くで鳴っている消防車や救急車のサイレンに注意を向ける

**Positive Anticipation** オリジナル短縮版と重複する項目数：4項目

- 65 お子さんの大好きな大人が訪ねて来ることを知らされた時、とても興奮する
- 66 お子さんの大好きな大人が訪ねて来ることを知らされた時、すごく喜ぶ
- 131 新しいおもちゃをもらえるようなわくわくする出来事の前に、大人しく座ってられない
- 133 新しいおもちゃをもらえるようなわくわくする出来事の前に、一刻も早くそれが手にはいるよう心から望んでいるようである
- 164 家族で遊園地へ遊びに行くような、まだ先の外出予定を聞いて、その計画にとっても夢中になる
- 165 家族で遊園地へ遊びに行くような、まだ先の外出予定を聞いて、それを楽しみにする

**Sadness** オリジナル短縮版と重複する項目数：3項目

- 88 他の子どもがお気に入りのおもちゃを持って行ってしまった時、悲しそうに泣く
- 114 「だめ！」と言われた時、悲しんで泣きそうになる
- 118 興奮するような活動や出来事後、悲しそうに涙ぐむ
- 137 お子さんが何かを求めてきたのに対してあなたが「ダメ」と答えると、悲しそうな顔をす

る

- 151 あなたがお子さんから遊んではいけない物を取り上げると、悲しそうな顔をする
- 185 あなたがお子さんのおこないに対してやさしく注意したり正したりすると、傷つけられたような表情をする

**Shyness** オリジナル短縮版と重複する項目数：2項目

- 5 家の外、たとえばスーパーや公園で知らない人が近づいてきた時、親にしがみつく
- 77 初めての人と会う場面で、目をそらす
- 78 初めての人と会う場面で、おとなしくなる
- 79R 初めての人と会う場面で、くつろいだ様子を見せる
- 148 めったに会うことのない親戚や、大人しかいない友人の家族を訪ねた時、後ろに引っ込んで目を合わせようとししない
- 149 めったに会うことのない親戚や、大人しかいない友人の家族を訪ねた時、顔を隠す

**Sociability** オリジナル短縮版と重複する項目数：2項目

- 21 よく知っている子どもが家に訪ねて来た時、その子と一緒に遊ぶ
- 22 よく知っている子どもが家に訪ねて来た時、その子と仲良くしたがる
- 84 よく知っている子どもがいる家を訪問した時、その子と一緒に遊ぶ
- 85 よく知っている子どもがいる家を訪問した時、その子と仲良くしたがる

**Soothability** オリジナル短縮版と重複する項目数：3項目

- 46 何かに動揺した時、すぐに気持ちを切り替えられる
- 47R 何かに動揺した時、気持ちを落ち着かせるのが大変である
- 186R 動揺している時、慰められても3分以上泣く
- 187 動揺している時、1～2分で気が晴れる
- 188 動揺している時、容易に気持ちが落ち着く